

6-1 札幌市河川環境指針の推進体制

札幌市河川環境指針ならびに本指針に基づいて行う川づくりは、その効果などを検証し、必要に応じて見直しを行い、継続的に改善していくことが重要です。

(1) (仮称)札幌市河川環境推進連絡会による指針の推進

札幌市河川環境指針の推進にあたって、河川工学や生物生態系、環境、景観、まちづくりなどの専門家、市民などの参加による「(仮称)札幌市河川環境推進連絡会」を定期的に開催するようにします。

この「(仮称)札幌市河川環境推進連絡会」では、札幌市河川環境指針が適切に進められているか検証するほか、本指針に基づいて実施された川づくりの状況から今後の整備のあり方を検討していきます。

また、河川工学や生物生態系、環境の専門家などで構成される専門部会を設けて、順応的管理※による川づくりなど、河川環境整備の具体的、専門的な検討を行います。

このように、各目的に応じた連絡会などの仕組みを利用し、指針が適切に推進されているかを検証し、「札幌らしい川づくり」を進めていきます。

(仮称)札幌市河川環境推進連絡会

■参加者例

札幌市
河川工学専門家
生物生態系の専門家
環境の専門家
景観・まちづくりの専門家
環境整備を実施している地域の代表者
市民
など

専門部会

専門的見地から河川環境整備について検討します
●順応的管理による川づくりの検討 など

●札幌の川を育むための検討

札幌市河川環境指針の推進状況の確認や改善点などを検討します。

※ 順応的管理

順応的管理とは、計画・設計段階で仮説を立て、それに基づいて施工し、仮説をモニタリングにより検証しながら、その結果により新たな計画(仮説)を立て、改善して行く手法。「多自然川づくり基本指針」の留意事項として事前・事後調査及び順応的管理を十分に実施することが示されています。

(2) 河川環境の変化に順応する整備手法の検討

河川環境の内、特に自然環境に配慮した「川らしい川を育む」ためには、長期的で段階的な川づくりを行う必要があります。

河川環境は、川のダイナミズムにより絶えず複雑に変化していきます。このため、整備による川への影響が、当初予想した目標に近づいているかどうかを長期的に検証していく必要があります。

このような川づくりを行う際には、下記に示すように市民、河川技術者、行政など、川にかかわる全ての人が、自然環境に配慮した川の整備に対する意識を変えていくことも必要です。

順応的管理など、河川環境の変化に順応する整備手法を検討します。

■川づくりに向けた意識の転換イメージ

●市民

- ・川を育むには、継続的に川と付き合っていくことが大切になります。

●河川技術者

- ・順応的管理による川づくりでは、改善を前提とした川づくりを進めるために、「微調整のきく技術」として、小規模で仮設的な工事も必要となります。

●行政(札幌市)

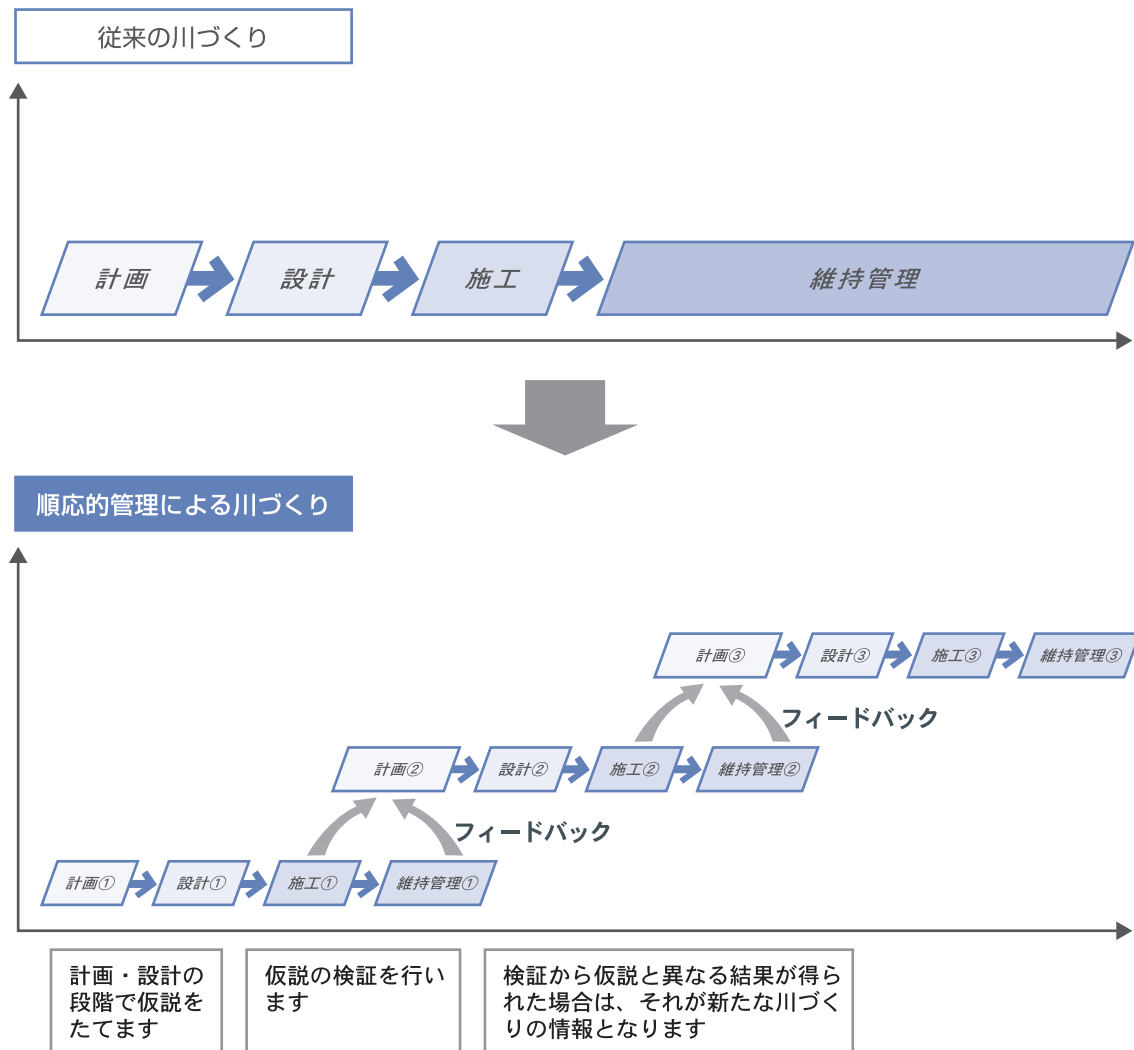
- ・仮説と検証、改善を前提とした段階的(複数年度)な事業をできるようにする必要があります。

参考～順応的管理による川づくりのイメージ

順応的管理による川づくりのイメージは、小さな工事を少しずつ進めながら、自然環境の復元状況、河道の様子などをモニタリングし、その結果を随時計画に反映させ、修正を加えていくことです。

モニタリングの結果、仮説と異なる結果が得られたときなどには、新たな川づくりの情報として活かしていきます。

■順応的管理による川づくりのイメージ



(3) モデル地域による指針の推進

札幌市の川づくりは、一つ一つの川について、「自然」・「人」・「まち」それぞれの川の特性にあった関係を考えて進めることを基本とします。その上で、札幌市河川環境指針を推進するためには、先行してモデル的な取り組みを行い、その効果を広く市民に知ってもらうことも重要です。

モデル的な取り組みは、前述の「(仮称)札幌市河川環境推進連絡会」でも確認しながら行います。

●札幌らしい川づくりモデル地域

地域を選定し、住民参加で川との関わり方、整備、川の育み方などを検討します。検討結果から「川の手当て」と「川の手入れ」について整理しながら必要に応じた整備を行っていきます。

河川整備の内容やその手法については、必要に応じて「(仮称)札幌市河川環境推進連絡会」または専門部会で検討しながら進めます。

